

歳首歳末の時事新報
来る二十七年一月一日は月曜日に當り新報休刊の例日
なれども年頭早々の休刊は公衆の不便なるを以て本社
は休刊を四日に延べ一日二日三日の
三日共發刊す

時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物
價の報告あり其代價は左の如し

- 時事新報定價(海外送付には此他後に)
一號 貳錢五厘〇一箇月 前金五拾錢〇三箇月 前
金壹圓四拾五錢〇六箇月 前金貳圓八拾五錢〇一箇
年 前金五圓六拾錢〇月曜日休刊(此他大祭祝日年
始年末等一切休刊せず)
前金 一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻す
る事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の
前金は廣告を以て期定する事と御承知被下度候

時事新報廣告料(前定)
一行五號活字廿四號 一日限 六日以上 七以上
二行 二付 十三號 十一號 十號 五號

本社(寄稿)に付
東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より
各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を
填寫するより各社同一の記事を掲載するも寡からず獨
り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社
に通信を依頼せずとも雖も世間往々此事を知らずして通
信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信
ずる方多きが如し爲めに本行通信を以て行はるる場合も
本社に直接に記事論説を寄稿せんとする方は直接に
本社に寄稿せらるるものとす

時事新報社に達したる投書の内容は凡て寄稿者に返
戻せず又本社に保存せず

時事新報

條約改正の目的は
一日も忘る可らず

條約改正の成就は我國多年の宿願にして曾て一日も吾
人の胸裡に往來せざる事なく政府にても從來種々に
手段を盡せしかば今猶ほ希望を達するの運にに至らず
とは誠に遺憾至極の大第なれども深く其原因を推究す
るときは二十餘年の積習を慎むの外なきを要すれば唯
心を用ひ精を勵まして改正の速ならんことを祈る可き
のみ本來外國交際の權衡は國の實力如何に關するもの
にして實力にして對等ならざる限りは假令條約の文
面を對等にすも其効なきや明白なれば此點に就て最
も注意を加ふるを第一の要件なれども是れは間接の
手段にして今日に直接の急を云へば或は之を普通

の條理に訴へ或は之を双方の不便に訴へ又或は年來の
友情に訴へて外國をして表面上我が要求を拒むる能
はざらしむるの準備と手段を盡し苟も其手段となる
可きものは一事も忽にせずして着々進歩するを即ち
一日も忘れざる所以の極意なれば唯その進歩に際し
斜に逸して岐路に迷ふとなきに在るのみ彼の條約廣
行論の如きも其精神を改め單に改正の目的を達するの
方便として自重の事實を示すに止むたらんは我輩も
亦當に反對せざるのみか國家宿昔の志を忘れざるもの
として之を贊成するに各ならざる可しと雖も其議論の
過激に逸して却て宿願の目的を空にするは其も遺憾
なりと云ふ可し其詳細は他日の論に譲り更に眼を轉
じて近來我國にては如何に條約改正事業の爲めに準備
と手段を講じつゝあるやと眺むるに彼の廣行論を外に
しても間接に改正談判の進歩を妨げて知らず識らず外
人をして其談判を拒むの口實を得せしむるものなきに
非ず例へば我輩が既に「必罰」と題して述べたる如く
裁判所に容易に證人を召喚し家宅を搜索して毫も人
民の迷惑を意とせざるが如きは日本の實狀に照しても
其だ不穩なる上に外國人の如き私權の發達したる國民
に取て之を開いて誰か驚かざるものあらんや從來條
約改正の進路に於て常に故障を受けたるものは重に法
律の不完全云々に在りたりしが我法律の完全なるは以
て文明諸國にも誇るに足る可く又これを執行する法官
どもも學識經歷ともに備りて率に正廉潔白ならざるは
なし殊に人文の程度は既に徳川の時代に進歩の實を呈
して外面の粗雑なるに引換へ内實の決して野蠻ならざ
りしは一々その例證に乏しからず我輩が力を盡して右
等の眞面目を披露し外人をして復た故障の口實を置く
に餘地なからしめんと勉めたるは天下讀者の知る所に
して其意實に條約改正の方便たらんことを期したりし
に斯る美玉明珠の打揃ふにも拘はらず裁判所の不注意
なる封建時代の古人も亦敢てせざりし輕卒の吟味を遂
げ動もすれば輒ち證人召喚家宅搜索等に及びて心當り
もなきに無益の騷ぎを拂脱せしむる様にては我輩の苦
心を無にするのみならず實に國家の大事を藐視するも
云ふも亦敢て過言に非ざる可し此事たるや日本の文明
に不適合不適當として我輩の斷じて批難したる所なれ
ども況して條約改正の準備と手段は一日も忘る可らざる
の際に當りては一入遺憾の情なき能はず常路の反省
を乞ふに特に切なる所以なり要するに裁判官にても國
會議員にても我國民は擧げて條約改正を心となし大事
を抱ゆる身の上と覺悟して一舉手一投足を注意あらん
ふと呉れくも希望する者なり

○大坂年末の景況
大坂も押詰まるに從ひ市中
の往來漸く繁さを加ふれども思ふ程の事なし抑も本年
は春來八九月頃に至る迄は世上の人氣頗る能く其物の
賣行盛梅より推量せば米作の收穫後は一入の好況を添
る本らんとは當時已に商家の豫想せし處なりしが偶然
十月十四日の暴風水害ありて九州中國四國路を暴ら
し其結果は米價の暴騰となり遂に同月二十一日大坂堂
嶋の米市場は十月限最高八圓七十四錢、同二十六日十
一月限八圓三十四錢十二月限八圓二十四錢の高直を顯
はし就て現米古上物九圓二三十錢新上物八圓三十錢に
騰貴し實に中已下の人民苦痛を感ずるに至りたり而の

みならず米國購銀法の廢止は銀貨の暴落となり生絲賣
易の不測は忽ち金融に及び株券の下落を促し又諸物資
は類りに騰貴し世上一般の人氣を挫きたり左れば大坂
の商人が折角の目算も茲に至るに大に阻礙を來し一旦仕
入たる品物の庫中に溢滞の慘況に陥り資本運轉の機會
を失ひ擧げて大坂米綿商の不振の事あり其影響
忽ち木綿商の倒産となり延て吳服南洋絲織其他一般商
業手形の流通に及したる等は此年末の不景氣の原因と
はなれり蓋し米作は近畿北越東國筋の無難に屬せば新
穀收入後此地方より出廻り米多く現に當年末の在米二
十一二萬石に達し勞々堂嶋の納會相場は二節七圓七十
七錢迄に低落し隨て現米も新米上物七圓四五十錢の價
格を保つに至りたるは需用者に於ては稍や安穩の思を
爲さしめたり要するに大坂歲末の景況は先不景氣の方
なり左に一二概況を記載すべし

金融
は左のみ逼迫を告げざるも十一月二十一日日本
銀行支店に於て在來の割引歩合を一錢七厘に改正した
る以來は各銀行の用心頗る堅固となり已前の如く金融
の運付難く金利は次第に騰貴し十二月十九日大坂同
盟銀行の日歩二錢五厘を騰はし爾後二三厘づつの高
低に保合ひ二十六日に於て二錢二厘に取組たり是より
先き日本銀行支店は割引引申込高漸く増加する傾きある
より二十二日に到り再び割引歩合一厘方を引縮め一
錢八厘に改正したるも二十六日頃總貸出金高已に八
百萬圓に達したるよし蓋し當春已後金融の大緩慢に過
ぎ銀行者は資本の運轉に困ひの餘り家屋地所等を抵當
に取りしもの何れの銀行も十萬乃至二十萬位の貸金あ
り此抵當物は日本銀行にて融通の付かざる品故殆ど固
定に屬し又木綿商手形不渡の餘勢は一般商業手形の信
用を欠くに到り銀行者中に容易に此手形の割引せざる
の内決もあれば商業取引上非常の溢滞を來したるは勿
論商品不測の爲め資本の運用滑ならずして斯は金融
の引縮りを見るに至りしならん鬼に角今後生絲の擱行
き模様は金融上大に緩縮を呼起すならんれども尙ほ
舊曆正月を控へ居れば愛許暫らく緩慢に向ふの模様な
し

米況
は平年九州より兵庫大坂東京等に輸出するもの
凡八十萬石と稱すれども本年は蟲害に罹て風水の害あ
り此年末迄大坂に輸入したるは僅に二三萬石に過す其
品質は至て粗惡にして到底平常の需用先に適當ならず
之に引換へ地廻近畿北越州伊賀伊勢米の輸入も多く當
月未大坂在米の二十餘萬石は多く此地方の産出に掛れ
り左れば假令以粗惡質にもせよ九州米の出廻りは明春
四五月頃ならんとの見込を立る者あり愈よ出廻りのあ
るものとせば惡米落の評語に達し今後の受渡米に粗
惡を受けざるを得ず故に明春の米況は定期安の現米高
なりとの見込を付け玄米氣配至極強きを含み居れり去
る二十七日の氣配は新上米七圓五十錢古上米八圓五十
二三錢

紡績
東京の好況に誘はれ過日來の在荷一萬四千捆
は月末に至るに悉皆出切りとなり隨て價格五十七錢の方
の回復を來したり則去る二十七日の價格は左然二十手絲
八十八圓一二十手絲六十六手絲八十四圓
木綿
は大坂木綿商の手形不渡已來同業者一大恐慌
を引起し已に倒産せし者四十餘軒に及び此金高概六十
萬圓内外の如く傳ふる者あり尙此餘額は今後二三十軒
の同商に及ぶ様の取沙汰あり就中紀州和歌山の綿ヲル

機業家の如き
なからず故に
ざる程なれば
用先に取引す
と云ふ斯る
に於ては實に
大和物賣八十
七錢
吳服類は昨年
類一圓五十錢
用者の購買力
如き例年一口
るものなく
足すの模様
(吳服屋の)
知るに足る
織十一二圓
帶類瓦斯絲
縮縮三丈物
丈物正十七
圓紅相正三
三圓五十錢
の八九は目
洋反物小間
換相場の暴
し品に依り
月頃迄は可
し年末に迫
心齋橋筋の
榮地たる心
慶橋筋迄の
りしと云ふ
るよし左れ
春以來金融
手出しせし
人筋は疾に
て此の明家
皆無にして
頗る閑散の
感を來した
各會社
まで決定
陶器會社、十
十六日京都
年期は何れ
き方なりと
佛敎生
圓の資本金
社は既に證
後一時より
出府株主は
醫九鬼隆備
したるに依
し其重なる
十圓、五百

雑報

○佛敎生
○各會社
○佛敎生
○各會社